

湖北広域行政事務センター

新一般廃棄物処理施設整備運営事業

施設集約型（一極集中）の効果

従来型の施設では

従来型の一般廃棄物処理施設の整備は、熱回収施設、リサイクル施設、汚泥再生処理センターを施設ごとにそれぞれの場所で整備を行うものです。

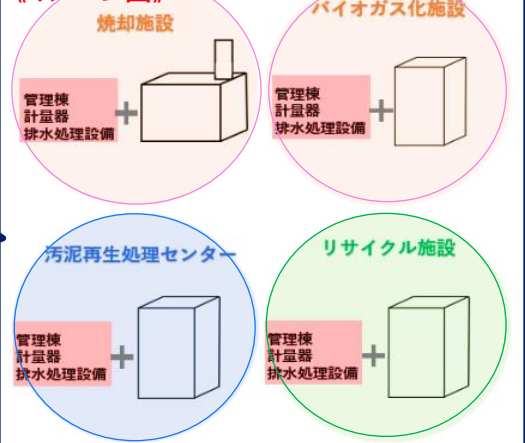
メリット

- 各施設が単独なので、高度な技術を必要としない

デメリット

- 各施設ごとに管理棟の設備や計量器が必要
- 各施設間の物質の輸送に時間とコストがかかる

《イメージ図》



施設集約型（一極集中）では

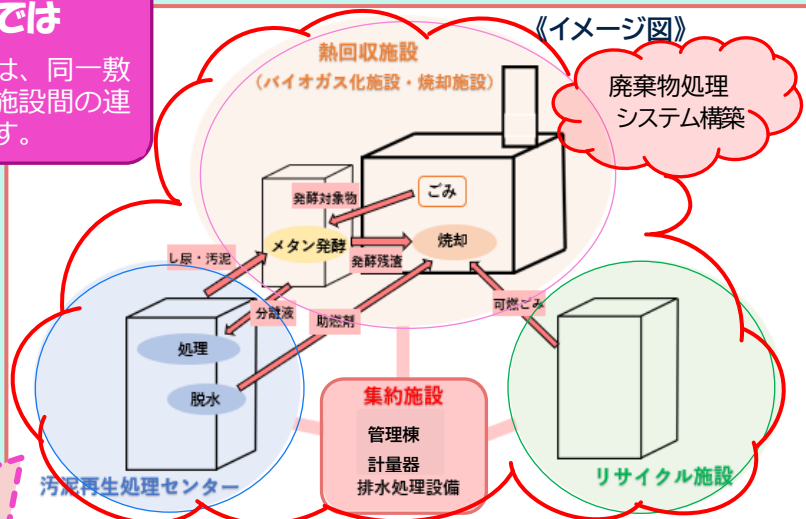
センターが進める新施設の整備は、同一敷地内にそれぞれの施設を集約し、施設間の連携を図った施設整備を行うものです。

メリット

- 本来各施設ごとに必要な管理棟、計量器の集約が行える
- 各設備の連携により、建設コストを縮減できる
- 場内動線の共有化による敷地面積の縮小ができる
- 各施設間での物質の移動が容易
- 複数施設の見学が可能となり、廃棄物処理の総合学習による環境意識の向上が図れる

デメリット

- 複雑になり、高度な技術が必要となる



一極集中ってなあに？

可燃ごみ処理施設、不燃・粗大ごみ処理施設、し尿処理施設の全てを同じ敷地内に一括整備をすることです。

一極集中にすると こんな効果があります！

従来型の各施設単独では整備できなかった各施設のそれぞれの良いところを活かして、**よりよいシステム連携を生み出し、効率的な施設整備・運営とコスト削減**につなげることができます。一極集中することの利点を生かし、最大限の効果を発揮し、**持続可能な施設整備**を目指しています。

